

北海道ニセコ高等学校の行動計画(グローバル・アグリハイスクール宣言)

全国の農業高校の行動計画		学校において令和元年度に重点化した取組の実現状況・課題			
「5つの基本方針」	「10の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育 で人材を育てる 学校	①「生徒一人一人を一層成長させる」教育を行います。	(1)農業クラブ3大事業への積極的な取り組みを促す。 (2)個に応じたインターンシップを実施し、キャリア教育の充実を図る。 (3)資格取得の充実。	(1)各行事に向け学習会の充実を図った。 (2)2年生は農業実習と観光実習、3年生は各進路希望に合わせた実習が実施できた。 (3)農業技術検定3級、食品衛生責任者資格取得に取り組んだ。	・取り組みの継続	5
	II 地域社会・産業に寄与する学校	②「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	(1)ニセコ町が取り組むSDGs 未来都市としての活動を学ぶ。 (2)マレーシアへの見学旅行。 (3)YTLホテルスクールとの交流事業。	(1)学習会の開催によりSDGsについて学ぶことができた。 (2)マレーシアでの農業・観光分野の視察学習の充実を図った。 (3)YTLホテルスクールとの交流会を実施した。	・取り組みの継続
III 地球環境を守り 創造する学校	③「地域農業の生産を支える」教育を行います。	(1)地域産業を支える取り組み。 (2)地域に定着させる新しい農産物の開拓。	(1)地元でのインターンシップが実施できた。 (2)地域に提供する京野菜、西洋野菜の栽培研究を実施した。	・取り組みの継続	4
	④「地域の農業関連産業に寄与する」教育を行います。	(1)有機栽培ワインドウ農家での視察実習と農業実習。 (2)町内で6次産業化を推進している企業との連携。	(1)年2～4回の実習と視察を行いニセコにおける有機果樹栽培を学んだ。 (2)観光客のニーズに応える農産物を提供した。	・取り組みの継続	5
IV 地域交流の拠点 となる学校	⑤「地球環境を守り創造する」教育を行います。	(1)小樽開発局と連携した「環境に配慮した農地開発」の学習により、持続可能で創造的な農業を学ぶ。 (2)エネルギー教育の充実。	(1)講義、視察をとおし環境に配慮した農地開発を学んだ。 (2)SDGs 学習や視察をとおしエネルギー教育を実施できた。	・取り組みの継続	5
	⑥「食農」教育を推進します。	(1)幼児センター、インターナショナルスクールとの食育交流・菜園交流。 (2)国際交流員との食文化交流。	(1)年3回の交流活動ができた。 (2)国際交流員の方と食文化交流を実施できた。	・取り組みの継続	5
V 地域防災を推進	⑦「地域資源を活用する」教育を行います。	(1)町花を活用したPJ活動の実施で地域との繋がりを深める。 (2)有島武郎と地域農業の歴史、さらに地域に根付く「相互扶助」の精神について学ぶ。	(1)町花ラベンダーを活用し充実したPJ活動の実践できた。 (2)「相互扶助」の精神を学べた。	・取り組みの継続	5
	⑧「地域交流の拠点となる」教育を行います。	(1)⑥「食農」教育を中心に地域交流の場をつくる。	(1)⑥「食農」教育を中心に食文化交流会を実施できた。	・取り組みの継続	5
	⑨機関・団体と連携した」教育を行います。	(1)町役場、小樽開発局、農業改良普及センター、日本科学技術振興財団、ニセコミルク工房、地域農家、酪農学園大学、札幌国際大学、八紘学園などと連携した授業の実施。	(1)エネルギー教育、農地開発と地域環境、土壌分析、地域農家実習、大学視察、大学での農業実習体験等特別授業を実施できた。	・取り組みの継続	5
	⑩「地域防災を推進する」教育を行います。	(1)実習に関わる安全教育の徹底。 (2)実習中の災害への備え。	(1)実習服・帽子・長靴・軍手などの着用を徹底した。 (2)危機管理マニュアルの見直しを行った。	・農場実習中の地震、原発事故への備えを徹底する。	4